

(2) 林業人財

プロジェクト 林業の新たな担い手確保・育成

目標

・年間新規就業者 H29～R3平均：90人 → R10：110人

挑戦する内容

- ・青い森林業アカデミーの継続的な運営
- ・青い森林業アカデミーの機能強化
- ・学生等を対象とした林業出前講座や仕事体験会等による魅力発信
- ・こどもたちの理解・関心を高めるための体験型森林環境教育の推進

関係者の声 ＝対話

- ・労働力不足で新規雇用したいが確保が難しい（林業事業体）
- ・雇用者確保のためには他産業並みの労働条件や賃金水準が必須、林業は人目に付きづらく仕事内容がイメージできないため就職先の選択肢に入りにくい
(林業労働力確保支援センター)
- ・アカデミーの講師体制や研修施設などの機能強化を図り、安定した指導をすべき
(アカデミー運営協議会委員)
- ・室内での勉強より現地で見て触った方が分かりやすい（こどもたち）

役割分担

- ・森林組合、林業事業体：雇用環境の改善、経営基盤の強化
- ・県、労確センター：アカデミー運営、普及啓発、就業支援

変革後の姿

- ・若年就業者の安定的な確保・育成により、森林資源の循環利用による林業の活性化と森林の多面的機能の発揮

令和8年度計画

挑戦する内容

- 1 青い森林業アカデミーの継続的な運営
 - ・研修生の確保に向けた高校訪問（随時）
 - ・オープンキャンパスの開催（9月）
 - ・運営協議会の開催（10月、2月）
- 2 青い森林業アカデミーの機能強化
 - ・「青い森林業アカデミーNext Vision」に基づく指導体制や研修環境の整備（カリキュラムの充実、各研修機関との連携強化、シミュレーターの導入など）
- 3 学生等を対象とした林業出前講座や仕事体験等による魅力発信
 - ・高校生等を対象に、林業の仕事に関する講義のほか、チェーンソーや高性能林業機械の操作体験を実施
 - ・進学や移住等の相談フェアに積極的に出展し、林業やアカデミーの知名度を向上
 - ・SNS等による魅力発信の更なる強化
- 4 こどもたちの理解・関心を高めるための体験型森林環境教育の推進
 - ・「緑の少幼年団」や小学校を対象に林業体験学習や木工教室等の開催
 - ・「A-wood」事業を活用した建築主のこどもや小学生等を対象に、苗木の育成と植樹体験の実施
 - ・企業が従業員や家族等と取り組む森づくりの企画立案や技術面のサポート



アカデミー研修風景



進学相談フェア

対話

- ・高校訪問を実施し、アカデミー募集活動とともに高校生のニーズを把握（6月）
- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（7月、1月）
- ・青い森林業アカデミー運営協議会を開催し、外部委員からの意見等を事業構築に反映（10月、1月）
- ・森林環境教育を実施した際のこどもたちの意見や感想を取りまとめ、企画立案に反映（11月）
- ・フェア出展時に訪問者へ林業やアカデミーに対する印象等を意見聴取（随時）